



A 試合会場レポート

試合番号 613

開催日 2015/12/27

平成27年度皇后杯ファイナルラウンド

会場: 大田区総合体育館

観客数: 2,600	開始時間: 12:30	終了時間: 13:52	試合時間: 01:22	主審: 北村 友香	副審: 澤 達大
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	----------

NECレッドロケッツ



監督: 山田 晃豊
コーチ: 大村 悟

通算: - 勝 - 敗
ポイント:

0	13	第1セット 【 00:20 】	25	3
	21	第2セット 【 00:28 】	25	
	22	第3セット 【 00:28 】	25	
		第4セット 【 】		
		第5セット 【 】		

久光製薬スプリングス



監督: 中田 久美
コーチ: 加藤 陽一

通算: - 勝 - 敗
ポイント:

【】内はセット時間
()内は交代選手

<監督コメント>

決勝戦、久光製薬スプリングスを相手に0-3で負けてしまった。
第1セットスタートを相手のサーブに苦しめられ、厳しい展開で取られたが、第2、第3セットは序盤にリードするが、最後まで踏ん張れず、相手に最後は詰められてしまった。今年最後の試合、最後まで挑戦し勝つことはできなかったが、この天皇杯・皇后杯を通していろいろと成長できた収穫のある大会であった。また、この経験や悔しさを年明けのリーグに生かしていきたい。
今年もたくさんの応援ありがとうございました。来年もまたご声援宜しくお願いします。

<監督コメント>

選手、スタッフ全員の力を結集して、優勝できたことを素直に喜びたい。
個人個人の力ではなく、互いに支え合い、最後まで集中力を切らすことなく、全員で戦えたことが本日の勝利に繋がったと確信している。
大きな重圧の中でも、決して気負いせず、それぞれの役割を理解し、自分達のバレーボールを展開してくれた選手達に心より感謝したい。
2015年を良い形で締めることができたが、今一度チームを引き締め、2016年の新たなシーズンを一丸となって戦っていきたい。
これまで本当に多くの方々にご声援いただきました。心より感謝申し上げます。引き続き、久光製薬スプリングスを宜しくお願いします。

13	家高	古賀	第1セット	新鍋	古藤	25
	()	()		()	()	
	イエリズ	山口		岩坂	水田	
	()	()		(森谷)	()	
	白垣	島村		長岡	石井	
	()	()		()	()	
リベロ: 鳥越		リベロ: 戸江				
21	イエリズ	大野	第2セット	新鍋	古藤	25
	(奥山)	()		()	()	
	白垣	古賀		岩坂	水田	
	(岩崎)	()		()	(石橋)	
	島村	山口		長岡	石井	
	()	(柳田)		()	()	
リベロ: 鳥越		リベロ: 戸江				
22	島村	白垣	第3セット	新鍋	古藤	25
	()	(岩崎)		()	(野本)	
	山口	イエリズ		岩坂	水田	
	()	()		()	(石橋)	
	古賀	大野		長岡	石井	
	()	(家高)		(栄)	()	
リベロ: 鳥越		リベロ: 戸江				
	()	()	第4セット	()	()	
()	()	()		()	()	
()	()	()		()	()	
リベロ: 鳥越		リベロ: 戸江				
	()	()	第5セット	()	()	
()	()	()		()	()	
()	()	()		()	()	
リベロ: 鳥越		リベロ: 戸江				

<要約レポート>

4連覇を狙う久光製薬スプリングスと初優勝を狙うNECレッドロケッツの試合。
第1セット、序盤、久光製薬は古藤のサービスエース、岩坂、長岡のブロックでリードすると、中盤、長岡の攻撃から連続6ポイントで突き放す。NECも終盤、山口のサービスエース、家高の攻撃で追従するも、久光製薬は石井の連続攻撃ポイントでセットを取る。
第2セット、序盤、NECは古賀、イエリズの攻撃、山口のサービスエースでリードし、中盤もイエリズにボールを集めリードするが、久光製薬も石井、長岡にボールを集め追従する。終盤、久光製薬は古藤の攻撃から連続6ポイントで逆転する。NECも島村の攻撃で反撃するも、最後、久光製薬・長岡の軽妙な攻撃でセットを連取する。
第3セット、後が無いNECは白垣、島村の攻撃でリードする。久光製薬も長岡、新鍋の攻撃、岩坂のブロックで対抗し、中盤まで一進一退のゲーム。終盤、久光製薬は石井の攻撃、サービスエースで逆転すると、新鍋の3連続攻撃ポイントでリードを広げる。NECも家高の攻撃、白垣のブロックで追いつがるも、最後は久光製薬・長岡の攻撃がコート真ん中に落ち、久光製薬が4連覇を果たした。

作成者: 塚本 健二